



第110号



発行：西郷村企画開発課

印刷所：ワタベ印刷所

西郷村の人口及世帯数

(52. 7. 1現在)

世帯数 2,753(+ 5)

人口 12,007(+ 5)

男 5,962(-10)

女 6,045(+15)

昭和52年 7月25日発行



ポンプ操法に熱戦を繰り広げる  
——火の守りは万全——



選手宣誓で競技開始



いざ出発……！



この分団の得点は何点かな……？

成績……

◎ホンプ車の部

優勝／第5分団(真船) 準優勝／第2分団(上・下熊倉) 第3位／第1分団(下羽太)

◎小型ポンプの部

優勝／第4分団(下新田) 準優勝／第1分団(上羽太) 第3位／第5分団(追原)



# ゴミ追放の大作戦展開

## 青年会の廃品回収に感謝

村と保健委員会主催による「村民総ぐるみ一斉清掃」が昨年引き続き六月二十六日に実施されました。

今回はごみ収集置場の整理清掃、子ども遊び場の整理整とん、道路側溝清掃、路肩草刈を重点に、一世帯より一名、合計二千四百二十名の参加をいただき、炎天下にもかかわらず、午前中いっぱいまでかかり、労働奉仕に汗を流しました。特に連

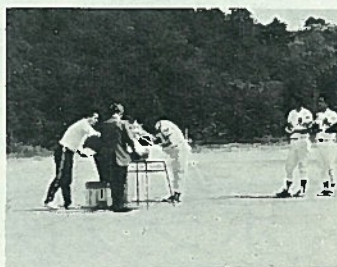


(↑労働奉仕に汗を流す参加者)  
(↓廃品回収に協力いただいた青年会の方々)

合青年会にはボランティア活動の一環として各家庭で処理に困っている廃品の回収に協力をいただきました。

昨年と今年の一斉清掃により、皆さん一人一人が村からゴミを追放しようという意識を高め、明るく住みよい村づくりに向けて推進したいものです。

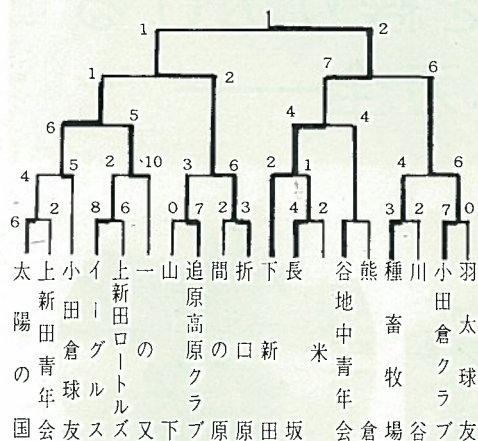
最後に保健委員である区長さんをはじめご協力をいただいた方々に感謝いたします。



(優勝した下新田チーム)

ンとなり、議長杯野球大会が盛大に行なわれました。このグラウンドは上新田地内に建設され、四号線の高橋商店から穂刈製材所の前を通り大平部落に至る途中の空地を村で借り受け、整備したりつばなも二番目のグラ

### 第6回議長杯争奪野球大会



## 着々と進むグラウンド整備

### 総合グラウンドも計画

村ではかねてから、ますます高まるスポーツ熱に対応するため、グラウンドの整備を急いでいきましたが、このほど新設オーブ

ンとなり、議長杯野球大会が盛大に行なわれました。このグラウンドは上新田地内に建設され、四号線の高橋商店から穂刈製材所の前を通り大平部落に至る途中の空地を村で借り受け、整備したりつばなも二番目のグラ

ンとも役場近くの、折口原地内(毎年畜産共進会が行なわれていた所)の村有地に建設される予定で工事が来月完成を目前に急ピッチで行なわれています。

村ではこれで充分とは思っておらず、目下、村の総合グラウンドを計画していますので、もうしばらくの辛抱です。これまでこの二ヶ所のグラウンドを大いに御利用下さい。

尚、とりあえず中央公民館では上新田グラウンドの活用を望んでいまして、ご利用の方はどうぞ申し出て下さい。

### 夏の交通事故防止

#### 県民総ぐるみ運動

実施中!!

7月21日～8月20日

スローガン

いねむり運転と  
子どもの交通事故  
をなくそう

過労運転をなくそう

○過労はいねむりを抱く

○睡眠を十分とろう

○睡魔は明け方やってくる

○ねむ気を感じたらすぐ休憩しよう

子どもと老人を交通事故から守ろう



◎家族みんな  
交通事故を話しあおう



# 『白河都市計画道路の変更 決定の縦覧について』

昭和五十一年一月二十三日から同年二月五日まで縦覧されました白河都市計画道路が県知事により決定され、左記により告示縦覧がなされており、左記により告示縦覧がなされておりますのでお知らせいたします。

## 福島県告示第七五七号

都市計画法（昭和四十三年法律百号）第二十一条第二項で準用する同法第十八条第一項の規定により白河都市計画道路を変更した。この変更に係る関係図書を次の通り縦覧に供する。  
昭和五十二年七月五日

福島県知事

松平勇雄

▼新たに都市計画に含まれた土地の区域

▽白河市のうち、字南堀切、字高山、字高山西の一部の区域

▽西郷村大字小田倉のうち、字道南、字前山、字豊作、字子安森、字裏山、字屋敷裏の一部の区域

▼追加される路線

駅前東線、駅前西線、南堀切高山西線

▼変更される路線  
白河駅前倉線

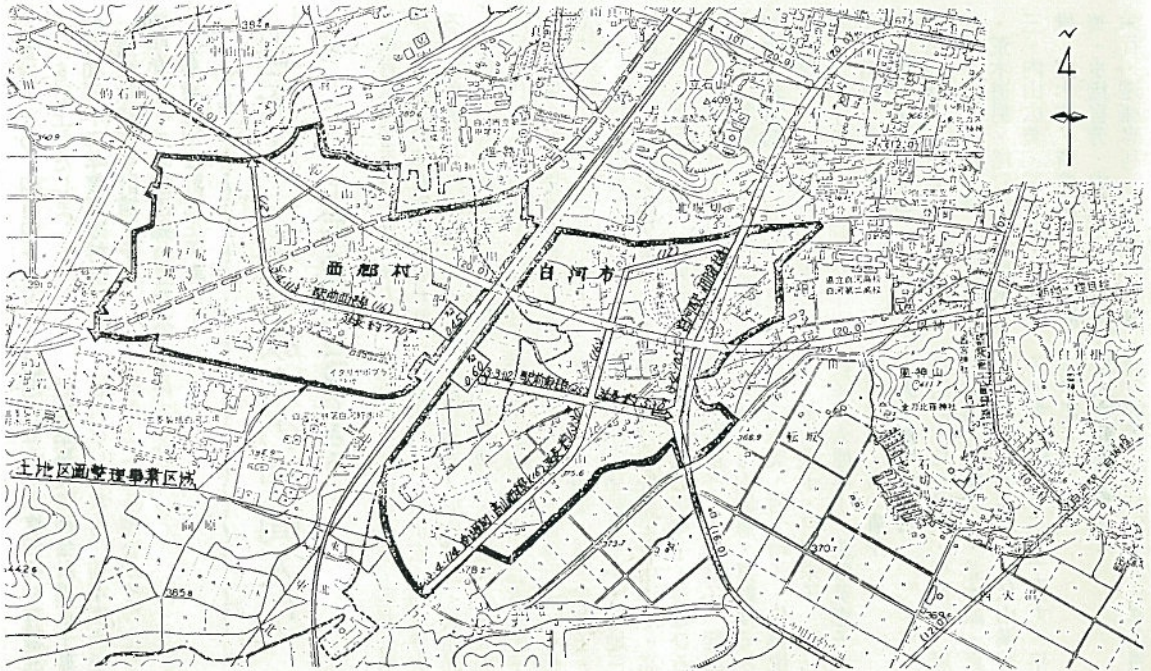
▼縦覧の場所  
福島県土木部都市計画課  
福島県白河建設事務所

詳しくは白河建設事務所又は西郷村役場企画開発課にお問い合わせ下さい。

## 行政方別座談会開催 についてのお知らせ

次の日程により座談会を開催致しますのでぜひ参加くださるようお知らせします。

日	時	会場
8月4日	午後1時	羽太小学校体育館
8月5日	午後1時	米公民館
8月6日	午後1時	熊倉小学校体育館
8月8日	午後1時	農民研修センター
8月9日	午後1時	川谷中学校体育館



無謀運転は  
危険と損失が多い

- ◎飲酒運転は絶対しない
- ◎スピードはひかえめに  
ゆっくり走ろう
- ◎無理な追越しはやめよう
- ヘルメット・シート  
ベルトを着用しよう
- ◎ヘルメットで頭を守ろう  
バイク50ccに乗るとき  
もかぶろう
- ◎シートベルトは命綱  
高速道路でももちろん、一  
般道路でも必ずシートベル  
トを着用しよう

## 道路を守る月間

8月1日①～8月31日②  
道路には「ヒエ」を捨て  
ないようにしましょう。

- 推進標語
- 広げよう きれいな道路
  - 笑顔の輪
  - よい道 よい街 よい社  
会
  - この道は あすに向って  
すすむ道



# 村議会報告

## 第2回定例会より

六月二十四日から六月三十日まで、第二回定例会が開かれ、西郷村国民健康保険税条例の一部改正外五件が上程され、いずれも原案通り可決されました。

【議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例の一部改正について】

従来、本村におきましては、議会の議決に付すべき契約は予定価格一千万円以上、財産の取得又は処分は七百万円以上と定められており、これは地方自治法施行令に定められている最低の限界価格と同額です。然しながら、この条例の制定は昭和三十八年度であり、当時と比較しますと、社会情勢の変化、諸物価の高騰は著しいものがあり、この金額では実情にそぐわなくなつて来ましたので、今回、契約につきましては「二千万円以上」、財産の取得又は処分につきましては「一千五百万円以上」とするよう改正いたしました。

【西郷村国民健康保険税条例の一部改正について】

昭和五十二年年度の保険税の総額

額は、前年度繰越金が比較的高額になつたため、前年度と同額に止めることができませんでした。然しながら、税率算定の基礎となる世帯数、被保険者数、村民税課税金額、固定資産税額が變つてまいりましたので、国保税の税率に若干の相違を生じてきました。この結果、所得割、資産割で若干のダウンがあり、被保険者均等割、世帯均等割で若干のアップを生じました。(詳細は五ページを見て下さい。)

【昭和五十二年西郷村一般会計補正予算】

今回二千七百八万六千円を補正し、予算総額は、十四億四千四百五万五千円となりました。歳入におきましては、村民税の個人分で今回一千四百万円、繰越金で一十七万七千五百円のものとなつたのが主なものです。歳出におきましては、社会福祉費で遺族追悼式、川谷保育所の便所の整備のための補助金、百八十万円、児童福祉費で保育所の整備のため四百八十八万三千円を計上し、西一中建設で三百三十五万六千円を計上、保健体育費で上新田、折口原のグラ

ド整備のため、四百四十五万六千円を計上いたしました。

【昭和五十二年西郷村国民健康保険特別会計補正予算】  
【昭和五十二年西郷村簡易水道事業特別会計補正予算】

## 百五十一名が成人の仲間入り

成人者氏名簿でできる

来月八月十五日、村の成人者が熊倉小学校校体育館で行なわれる予定です。

今年の成人者は昭和三十二年四月二日から三十三年四月一日までに生まれた男女、百五十五名です。

尚、名簿に洩れている方、又は氏名等に誤りがありましたときは、八月五日まで、中央公民館までお知らせ下さい。

- 成人者 名簿 (百五十一名)
- ▽大字米方部 △ 吉田生栄子・小針俊明・大倉久・畑生恵司・小泉孝・小針春美・鈴木宮子・相山明美・春川みち子
- ▽大字小田倉方部 △ 中山昌幸・相川弘史・小林正明・森正敏・佐藤清勝・鈴木利男・荒木道男・尾股秀雄・鈴木政三・内山広美・石原清・近藤信雄・鈴木修・斎藤正行・長田廣美・水橋喜芳・内田仁・小野崎栄行・遠藤忠利・小高良一・真

【昭和五十二年西郷村有線放送電話事業特別会計補正予算】  
これはいづれも、前年度繰越金の計上による調整がその主なものです。

- 船公則・程川喜久枝・室井公男
- ・長谷部正・穴沢宏・鈴木幸夫
- ・相川清志・児山秀雄・真船邦彦
- ・相川嘉一・安部英子・大塚愛子・野崎トシ子・鈴木由美子
- ・相川桂子・佐藤則子・小林康子・鈴木明美・薄葉美智子・鈴木芳子・猪越多美子・菊地三千代・熊谷好美・金山洋子・高橋幸江・真船美律子・渡辺ひろ子・円谷隆子・真船靖子・蛭田喜久枝・金内敏恵・真船はるみ
- ・横山春美・村上玲子・佐藤悦子・金山啓子・月岡栄子・菅三枝子・大原孝子・遠藤美恵子・金田君子・日向直子
- ▽大字真船方部 △ 白岩勲・白岩光夫・平賀一・黒田耕秀・松田次郎・並木誠・真船三起子・真船純子・秋山満智子・金田弘子・上田千恵子・平山美千子
- ▽大字鶴生方部 △ 勝又敏徳・木村仁・渡辺富美雄

**巡回婦人相談会**  
とき 昭和52年8月26日(金)  
午前10時～午後3時  
午後5時～午後7時  
弁護士相談は午後1時～4時  
場所 埴町公民館

- ・湊明美・菊地信子・添田昭子
- ・堀内清子・佐藤よね子・佐藤順子・佐藤俊子・鈴木京子・須藤道子・今井優子・金田博子
- ▽大字熊倉方部 △ 須藤健一
- 大友正敏・仁平二三夫・仁平清一・鈴木久男・鈴木裕・鈴木裕二郎・金子廣勝・須藤正行・正木康之・江口正弘・中川定弘・藤田律子・芳賀郁子・鈴木妙子・君島日出子・高久千代子・安部一恵・高木茂子・高根沢加代子・長谷川敦子・金田ヒロ子・佐藤景子・近藤高子・正木順子
- ▽大字長坂方部 △ 小山義美・小川原俊一・尾股忠雄・小山恵子・大通千枝子・大高美千江・大高裕子・大高浅子・小山久美子
- ▽大字柏野方部 △ 加藤栄・本城雅之
- ▽大字羽太方部 △ 福田重男・鈴木智晴・渡辺育雄・加藤和正・近藤敦夫・木村定・海老名義次・若林哲雄・白岩良一・白岩恵次・森光男・竹田さち子・鈴木美智子・近藤起世・鈴木三重子・星弘子・鈴木静子・鈴木富士子







# 文化 賤だより

## 西郷村の産馬 ①

農家から馬のいななきが消えてからもう久しい。路のかたわらに草をはむ馬、田甫でマンガをひく農馬、……をもはや見ることはない。ざわめきの中でくりひろげられた白河馬市のにぎわいを今は想い出の中であつかしむばかりである。

戦前まで西郷村の農家ではこの家でも二匹や三匹の馬は飼っていた。これは単に馬を農耕に使役するばかりではなく、むしろ産馬による収入が大きな目的であった。

この西郷村（白河地方）の産馬の隆盛の基礎はすでに近世初期に築かれていた。白河藩の代々領主はいずれも馬産につとめたが、その中ではじめに馬産を藩の特殊産業とすることに心をくだいたのは、寛永四年五月に入部した丹羽長重である。この長重が産馬に力を入れるようになった動機について次の挿話が残っている。

「丹羽長秀の嫡子長重が領内二本松に在国していた時のこと

である。城下を農馬に乗り疾走してゆく熊野道者があった。さして、なんと駿足な馬であろうか。だれかあの馬を請けこ」と長重は家来に命じた。さつそく家来の一人はかの道者に主の申すところを話した。道者は長重の願いを聞き入れ、家来に馬を与え何処へか去っていったという。

長重がさつそく馬をためしてみると、思った通りの名馬であった。道者から請けた馬であったので道者と名付けた。

「このような名馬は世に類希だ」と……。

## 甲子風物誌 ②

和尚はそこにそまつな小屋を建て日夜修禪に励んだ。

ある夜のこと、小屋の扉をたたくものがあつた。和尚がおずおずとたずねると、一人の老翁がそこに立っていた。

和尚が老翁を小屋に招き一夜語つたところによると、

「この山隅には霊泉があり、へんびな所にあるので誰も知ら

ないが、できるなら和尚のお力で人々の病患を除くために民間に知らせて欲しい」ということだった……。

次の日、和尚が老翁に聞いた場所に行くと、そこには確かに霊泉があつた。この時、鶴生村の獵夫も霊夢のお告げに従いこの場所に来ていた。

和尚はこの獵夫と語り、こゝを温泉場としたという。

## 郷土史コーナー

### 西郷村史 第21回

#### ◎近世農家の家計

こうしてしいたげられ、苦悩した農家の家計を語るべき資料は残らないが、寡少ではあるが数百年も経て我々に伝えられる「慶安検地帳」や「明細帳」、「万留帳」などから、近世農民のサイフの中身を考えていきたいと思う。

まず、前号の「慶安検地帳に見られる個人別持高」の表を見ればわかるとおり、一〇石以上（二五俵以上收穫）持つ百姓は、小田倉・同新田（上新田）・真船・羽太の四力村農家のうち四〇パーセントである。

州安和尚がそこにそまつな小屋を建てたので寺平といい、温泉を発見した年が「甲子」の年であつたので甲子と呼ばれるようになったのだという。

だが和尚が西郷に致つたと称される応永年間には「甲子」の年がない。一説には獵子のうった猿がこゝで傷をいやしていたので甲子といったと伝わるが、これも解明とはならない。

この残り六〇パーセント（一〇石以下）のうち半高（五石）以下の水呑に近い百姓は全農家の三三パーセントと多い。

同様にそれでは村々の百姓たちがどれくらいどの耕地を持っていたかを次表によつて見てみよう。

羽太村の七郎左工門は五町四畝八歩の耕地を持つ組内一の大百姓である。だが表が示す通り羽太村は五町、四町という大百姓が二人いるかわりに、一町以下の百姓が七一人も存在した。これは耕地の片寄りをさし、さらに貧富の格差がすでに近世初期より深刻化していたことを示

村名 保有反別 (反)	羽 田	真 船	小田倉 (山下)	小田倉新田 (上新田)
50以上	1戸	0戸	0	0
50~40	1	0	3	0
40~30	10	2	6	0
30~20	13	10	4	1
20~10	29	4	7	5
10~5	26	2	4	14
5以下	45	2	3	12
総 戸 数	125	20	27	32
平均面積	12.023反	19.924反	20.812反	7.717反

している。

かわつて真船村をみると、四町以上の富農はいないが、一町以下の百姓も二〇戸中四戸の二〇パーセントと、前の持高表が示していたのと同様、貧富の格差が小さいことを示す。

このように村々によつて、それぞれ特徴を有する。概観すれば、早くから開かれ、阿武隈川沿いに開かれた村々には水田が多く、南部地区は畑作地帯となつていて、さらに旧村には富農も多いが、水呑と呼ばれる貧農あるいは隷属百姓も多く存在したことがわかる。

つづく



回想録

陸軍衛生兵の思い出

佐藤兵治(最終回)

四月の海は荒れることを忘れ  
たかのように静かであった。

船内の一夜が明けて昼下がり  
になると、甲板から降りてくる  
者が「九州の一部が見え始めた」  
という。しかし、私たち六人は  
刻々迫りつつある離別のために  
互いに郷里のことなどを話し合  
ったりして、そのことに集中し  
ていた。軍医は高知県宿毛町、  
准尉は島根県、軍曹は熊本県、  
F一等兵は鳥取県、O二等兵は  
新潟県。郷里へ帰ってしまえば、  
西と東に遠く隔った人々になり、  
再会は期しがたいものとなつて  
しまふに違ひなかつた。男同志  
の生活の中にも、それなりに親  
密の度が深まつていたことは、  
身に降りかかる敗戦の混乱を無  
言のうち克服しようと、互いに  
努力し合った強いきずなが結  
び合っていたことかと思われる。



塘沽からはるばる私たちを運  
んでくれたLSTは、緑濃い松  
が見える島々を巡るよう佐世  
保湾へ入る。乗船者は全員とい  
つてもよいほど甲板に立つて、  
移り変わる夕映えの景色に見と  
れている様子であった。

……国破れて山河あり、城春に  
して草木深し……  
一人としてこの感慨に耽けらな  
い者がなかつたようである。  
かつて重要な軍港であったた  
めか、さほど遠くもない島の岸  
辺に空母のような巨艦が横転し  
て残骸を晒しているなど、私が  
中国を放浪していたころ、国内  
は凄まじい空襲を受けていたこ  
となどを如実に物語っていた。  
比較的平穩であった自分の足跡

を振り返ると、目の当たりの海  
と命果てた人々の多い中国大陸  
に向かつて、敬けんな合掌を捧  
げねばと、深い思いに沈んでし  
まう。  
戦争という国際関係を深く掘  
り下げる認識や学識に乏しい私  
は、ただ時勢に押し流される泡  
沫のように広い中国大陸を往来  
した。しかし、この期間を通じ  
て、善段の暮らしにあつては得  
がたいものも学んだ。それは、  
人類愛というものは涯しもなく  
広いように思い付いたことであ  
る。貨物廠の警備がアメリカ軍  
から中国軍に引き継がれた後の  
ことで、救護交替のため私たち  
は医務科を引き揚げ、小さい一  
室をあてがわれ帰国を持つ身に  
なつていた。ところが、廠内に

分宿して警備に当たっていた中  
国軍の一個分隊ほどの宿舎と私  
たちは隣接していた。  
とある夜のこと、二、三人の  
中国兵が私たちの狭い室へ遊び  
に来て、筆談やら片言の中国語  
で話しの遣り取りをしていたが、  
彼等の方から、入浴に困るだろ  
うと風呂を使うことをすすめて  
くれたのである。中国人は私た  
ちと違って毎晩入浴はしないが  
私たちの欠かせない入浴を黙認  
し、時には、三角形の星一つ(二  
等兵?)、「リユー」という名  
の中国兵と一緒に風呂焚きをし  
たこともある。  
貨物廠を發つ前日、怪しげな  
中国語で、「明天回国、多謝多  
謝」(明日帰国します、どうも  
ありがとう)とリユーさんに挨拶

俳句、川柳

木魚聞く縁の高さや蟻地獄 清二  
只一つ遠き神代の蟻地獄 寶河  
五月雨を吸いてくずれん蟻 六郎  
地獄 蜻  
蟻登る杉の伸びゆく空青し 桃晴  
庵に六つの鐘聞く妻籠宿 竜 郵  
和英 東仙 東 重丸 六郎  
な つゆ雲蟻動きゆく道長し 教 恵  
郭公に暁を知る独りかな あや  
大手毬明るく咲いて雨吸へり 七 伊  
蟻地獄訪う人のいる寺院か 和 英  
上棟の屋根に親族皆揃い 六 郎  
下向いて暮らす気楽なくせ がつき  
ボーナスが出たらと気楽 な子の願い 重 丸  
一日の終りを湯気と酒に告 げ 由 美  
新人のやる気返事を二度も 言い 秀 石  
足の名を確かめ父子初対面 洗いほど汚れひろがる汚職 三 郎  
の輪 昭 子 フ ミ

欄筆



### 税務署だより

▽所得税の住宅取得控除  
一定の条件に当てはまると、最高三万円ずつ三年間所得税から控除されます。

▽登録免許税(国税)  
所有権移転などの登記をするときにかかる税金で、固定資産税の評価額に、保存登記の場合、五%の税率をかけて算出します。しかし、一定の条件にはまると、税率はいずれも〇・二%に軽減されます。

▽不動産取得税(県税)  
土地や建物を取得したときにかかる税金で、固定資産税評価額

「自分の家に住みたい」という夢は、多くの人が持っています。が実際にマイホームづくりとなると、資金計画や設計などいろいろな問題がでてきます。税金のこともその一つでしょう。

そこで、住宅を新築したり、新築住宅を購入したときに関係する税金について、そのあらましを説明しましょう。

## 活動する青年会

七月十日、西一中で連合青年会主催の球技大会が行なわれた。今にも降り出しそうな雲行であったが、どうか一日もつくれた。

大会には羽太、長坂、米、熊倉(チャレンジを含む)、谷地中、フレンドシッパ、間の原、川谷(ニュー・スターを含む)、原中、上新田の

一〇団体、二五〇名の参加があり、種目は野球、ソフトボール、バレーボール、卓球の四種目が行われた。結果は次のようである。

※球技大会成績表

種目	優勝	準優勝
野球	熊倉	間の原
ソフト	原中	羽太
バレー	原中	川谷
卓球	川谷	原中

以上の結果、総合優勝は原中青年会チームが勝ちとった。

会場にはあつちい熱気がみなぎり、想い出深い試合が各会場でくりかえされた。特に野球のレベル向上はめざましく、九試合に七本のホームランが出た。熊倉の鈴木英司君にいたっては進決勝と決勝に各一本ずつ打つな

額に三%の税率をかけて算出しますが、一定の条件に当てはまると税金が軽減されます。

▽固定資産税(市町村税)  
固定資産の価格に一・四%(標準税率)をかけて算出しますが、新築住宅の特例として、一定の条件に当てはまるときは新築後三年間税金が半額になります。

### 村民盆踊り大会は 8月16日(火)

ど、その長打力は今年までの歴史の長い大会の中では群を抜いたものであった。

号	回戦	チーム	氏名
1	1	間の原	大倉 隆
2	2	羽太	和知謙一
3	3	長坂	鈴木宗弘
4	4	上新田	小林 透
5	5	熊倉	鈴木英司
6	6	熊倉	鈴木英司
7	7	決勝	熊倉 遠藤信一

接戦また接戦、間の原の小泉誠君にいたっては四戦を好投するエキサイティングぶりであった。



### ふるってご応募を!! 応募要領

名称 第9回簡易資金コンクール  
テーマ 簡保資金融資施設を題材とした明るい作品  
サイズ カラーはスライド35ミリ以上、白黒は四つ切り、(単写真、組写真いづれも可)  
作品の受付 郵便局の保険窓口  
募集期間 昭和52年6月1日~昭和52年8月10日  
賞 入賞作品及び賞品及び賞金な応募者全員に進呈します。  
※くわしいことについては白河郵便局保険課 (TEL 3304) にお問合せください。

### 六月の行事

- ① 定例町村会、白河防犯協会総会、西白河老人クラブ連合会総会、西白河地方選挙管理委員会総会
- ② 西白公民館連絡協議会、白河地方土木促進協議会
- ③ 中央婦人学級開講式、白河市文化センター落成式
- ④ 広域市町村圏内市町長会議
- ⑤ 議長杯野球大会
- ⑥ 西郷養護学校運動会
- ⑦ 県低開発地域工業開発促進協議会定期総会、県土地改良事業団体連合会総会、県砂防協会・治水協会総会
- ⑧ 東北ブロック国土調査推進連絡協議会
- ⑩ 昭和53年度重点事業陳情(県庁) 農業青年会議所研修会、西郷村スキークラブ総会
- ⑪ 西郷村保健委員総会
- ⑫ 上羽太天道念仏踊り
- ⑬ 自家用自動車協会総会
- ⑭ 全国国土調査協議会、交通安全協会白河支部定期総会
- ⑮ 昭和52年度西白河社会福祉協議会
- ⑯ 就職者を励ます会
- ⑰ 臨時議会
- ⑱ 第5回西白乳牛共進会
- ⑳ 県山岳遭難対策協議会、日赤西白総会
- ㉒ 村議会運営協議会、国保連當協議会
- ㉔ 第2回定例議会開会
- ㉕ 農業委員会、西郷川柳会合同句集「甲子路」出版記念懇親会
- ㉖ 村内総ぐるみ一斉清掃
- ㉘ 赤面山総合開発限役員会、株式総会、白河地区観光協会理事会、総会
- ㉙ 村議会閉会
- ㉚ 国立少年自然の家前夜祭、食肉流通センター定期株主総会